

平成28年度事業

教育委員会の事務に関する
点検評価報告書

平成29年9月

男鹿市教育委員会

《 目 次 》

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の方法	1
3	学識経験者の知見の活用	2
4	教育委員会会議の開催状況	2
5	教育委員会会議の審議状況	2
6	教育委員会会議以外の活動状況	4
7	平成28年度重点事業の点検・評価	5
I 【学校教育の質の向上】		
(1)	コミュニティ・スクール推進事業	5
(2)	児童生徒学習教室推進事業	6
(3)	小学校運動能力向上事業	7
(4)	男鹿・春日井市児童交流学習事業	8
(5)	国際教養大学との交流事業	9
II 【学校教育環境の整備】		
(1)	学校施設耐震化等事業	10
III 【生涯学習・生涯スポーツ活動の推進】		
(1)	男鹿市民文化祭	11
(2)	男鹿駅伝競走大会	12
IV 【芸術・文化・伝統の保護・継承】		
(1)	脇本城跡保存整備事業	13
(2)	「男鹿のナマハゲ」行事实施状況調査報告書作成事業	14
(3)	ジオパーク推進事業	15

1 点検・評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正(平成20年4月1日施行)され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、本市教育委員会が、男鹿市総合計画に基づく重点事業の取り組み状況について点検、評価を行い、課題の方向性を明らかにすることにより、教育行政の一層の推進と市民への説明責任を果たしていくために、平成28年度に執行した事業について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに市民の皆様に公表するものです。

2 点検・評価の方法

本市教育委員会は、毎年度、教育目標を掲げ、その目標の実現に向けた重点事業を実施しており、これらの事業を対象に教育委員会自らが事務の執行状況について、点検・評価を実施したものです。

なお、平成29年度の点検・評価は、平成28年度事業を対象に実施しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

男鹿市教育長・教育委員名簿 (平成28年度在籍)

職名	氏名
教育長	鈴木雅彦
教育長職務代理者	目黒恵子
委員	角崎紘二
委員	清水富喜子
委員	山本貴紀

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項で、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められております。本市教育委員会では、教育に関し学識経験を有する次の2名の方から、意見をいただきました。

○秋田県立男鹿海洋高等学校長 平川 信重 氏

○男鹿市社会教育委員（元北陽小学校校長） 三浦 豊彦 氏

4 教育委員会会議の開催状況

開催日	会議	場所
H28. 5. 17	第3回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室
H28. 7. 25	第4回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室
H28. 8. 24	第5回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室
H28. 11. 16	第6回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室
H29. 1. 31	第1回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室
H29. 2. 16	第2回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室
H29. 3. 14	第3回教育委員会会議	本庁舎3階第1会議室

5 教育委員会会議の審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条及び「男鹿市教育委員会事務委任規則」第2条の規定に基づき、平成28年度は議案5件の審議と、報告事項等27件、合計で32件を取り扱いました。

(1) 議会の議決を経る議案に関する意見の申し出に関すること。 5件

○平成28年度教育費 9月補正予算 12月補正予算 3月補正予算

○平成29年度教育費 当初予算

(2) 教育施策の基本方針の決定に関すること。 2件

○平成29年度学校教育の基本方針（案）及び重点目標と努力事項（案）について

○平成29年度生涯学習及び社会体育の重点目標と施策の方向（案）について

(3) 教職員、事務局職員等の人事に関すること。 1件

○平成29年度 職員等の人事異動について

(4) 報 告 事 項 等

24 件

- 男鹿市教育委員会の体制及び組織機構について
- 学校教育課事業について
- 船一小屋内運動場、北陽小吊天井撤去工事の進捗状況について
- 男鹿市総合教育会議について
- 教科用図書採択地区協議会規約の改正について（2回）
- 史跡脇本城跡公有化事業について
- ふるさと彩発見さがけ in 男鹿について
- 平成28年度全国学力学習状況調査の本市の状況について
- 市指定保存樹の解除について
- 日本ジオパーク全国大会について
- 今後の小・中学校の在り方について
- 学校給食新メニューについて
- 廃校備品販売の実施について
- ふるさと彩発見さがけ in 男鹿「男鹿ウォーク」の実施状況について
- 「第29回秋田船方節全国大会」の開催について
- 平成29年度国民体育大会東北ブロック大会兼第44回東北総合体育大会「ビーチバレーボール」の開催について
- 教育委員会の事務に関する点検評価報告書について（2回）
- 平成29年度主要施策・事業の概要について
- 船川第一小学校屋内運動場竣工式について
- 来訪神行事保存・振興全国協議会への新規加入について
- 日本遺産認定に向けた秋田県の取り組みについて
- 日本ジオパーク全国大会に係るプロポーザル方式による旅行代理店の選定について
- 学校給食調理業務等の民間委託について
- 市議会定例会での一般質問等について（教育委員会関係）（3回）

合 計 32 件

6 教育委員会議以外の活動状況

① 入学式（入園式）

月	日	学 校 名 等
H28	4. 7	男鹿南中学校、男鹿北中学校、男鹿東中学校、潟西中学校
H28	4. 8	船川第一小学校、脇本第一小学校、船越小学校、北陽小学校 払戸小学校、美里小学校
H28	4. 12	若美幼稚園

② 卒業式（卒園式）

月	日	学 校 名 等
H29.	3. 10	男鹿南中学校、男鹿北中学校、男鹿東中学校、潟西中学校、 若美幼稚園
H29.	3. 15	船川第一小学校、脇本第一小学校、船越小学校、北陽小学校 払戸小学校、美里小学校

③ 学校訪問

月	日	学 校 名 等
H28.	5. 27	脇本第一小学校、払戸小学校
H28.	7. 4	船川第一小学校、男鹿南中学校
H28.	7. 5	北陽小学校、男鹿北中学校
H28.	7. 8	男鹿東中学校
H28.	9. 28	船越小学校
H28.	10. 5	美里小学校、潟西中学校

7 平成28年度重点事業の点検・評価

I 【学校教育の質の向上】

(1) コミュニティ・スクール推進事業

方針・目標	市内小・中学校に「学校運営協議会」を設置し、学校・地域・家庭が一体となって学校をサポートする取組を推進し、地域に開かれた学校づくりを支援する。
目標値	○コミュニティ・スクール（以下CSで標記）に関するアンケートを実施。次の設問について4段階評価（1～4）で目標値を設定する。 ・CSの成果について（3.0） ・CSが地域住民に周知できている（2.5）
事務事業の実績	平成28年4月に市内全小・中学校を一斉にCSに指定した。各校に設置した「学校運営協議会」の会議を、年3～5回実施した。 各校では、地域と合同での避難訓練や防災教室の開催、野菜の栽培活動、施設等への訪問活動、奉仕活動、伝統文化学習など多様な実践が見られた。 市教委主催で夏季休業中に市内全教職員を対象とした教育講演会で由利本荘市の矢島小と鳥海中から両校の実践を紹介していただいた。 学校運営協議会会長と副会長、校長と教頭を対象にしたCS情報交換会を11月22日に開催し、他校の実践に触れ、課題等について話し合った。 CSの周知活動として、チラシの配布や市広報へCS通信を掲載した。 事業費 1,753,000円
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) ○アンケート結果 ・CSの成果について（3.0） ・CSが地域住民に周知できている（2.8）
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) ・平成28年度は指定初年度であったが順調なスタートができた。学校によって取組に差が見られるため、CS研修会、情報交換会を実施する。
教育委員評価	市内小・中学校が一斉にCSに向けスタート出来たことは評価したい。地域住民への周知は、今後の大きな課題である。方針、目標を明確にし、議論を重ね共通理解を深め信頼関係を構築して頂きたい。学校差が無いよう学校間で情報交換を密にし、各校の事業の反省と改善を迅速に進めて頂きたい。
学識経験者意見	CSの設置により学校と地域に心地よい風が吹き始めた。意欲的に推進しているところは大いに評価できる。ただ、教員の多忙感が増す中で、学校への新たな負担をできるだけ最小限に抑えるような配慮が必要である。このためにも、これまでに各校が独自に継続して取り組んできている特色ある実践を、いかにして地域ニーズとマッチングさせ活動へと結び付けられるかが一つの鍵になるのでは。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

I 【学校教育の質の向上】

(2) 児童生徒学習教室推進事業

方針・目標	中学校3年生及び小学校6年生を対象に、学習内容の更なる定着と学力向上を目指す。
目標値	○参加率 <ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習教室 (20%) ・光通信学習 夏季講座 (50%) 冬季講座 (30%) ・中学準備教室 (20%)
事務事業の実績	<p>平成22年度から実施してきた各中学校区の公民館を会場としての土曜学習教室は、9月から11月までの毎週土曜日に12回実施。</p> <p>平成25年度から実施してきた光通信学習教室は、市内4中学校と秋田予備校を光回線をつないだ夏季講座(夏休み中8日間)と冬季講座(冬休み中6日間)を実施。それぞれ、市内の中学3年生(希望者)を対象に、予備校の講師による学習教室を開催した。</p> <p>平成23年度から実施してきた小学校6年生を対象にした中学準備教室は、卒業直後の2日間実施。進学先の中学校を会場に、秋田大学生10名の支援を得て開催した。</p> <p>事業費 2,899,000円</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>(説明)</p> <p>○参加率 <ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習教室 (22.2%) 前年度比-7.2% ・光通信学習 夏季講座 (59.5%) 前年比-2.8% <li style="padding-left: 20px;">冬季講座 (30.1%) 前年比-1.9% ・中学準備教室 (24.7%) </p>
点検による事業の課題	<p><input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input checked="" type="checkbox"/> その他</p> <p>(具体的な課題及び取組)</p> <p>・業者委託事業ではあったが、通信機器が想定通り作動しないというトラブルが発生した。平成29年度は事業休止。</p>
教育委員評価	前年に比べて参加率は減少している状況をふまえ、事業の趣旨が保護者に浸透していたか、授業内容が生徒の要求を満たすものであったのかを検証し、今後の事業展開に生かして頂きたい。また小学校6年生を対象とした中学校準備教室は中学校生活をスタートさせるためにも大変重要な事業であると捉えている。CSの利用も可能ではないか。
学識経験者意見	地理的、経済的に塾等に通えない生徒が多いと思われるこの地区において、丁寧な学習指導を進める本事業についての評価は高かったため、休止は残念である。参加できない生徒、参加しない生徒の検証を行う事が必要。全体的な参加率から判断し事業そのものを廃止するというのは、子ども達の学習意欲を削ぐことにもつながりかねない。地域性を配慮し、一部地域の独自で事業の継続を希望する。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

I 【学校教育の質の向上】

(3) 小学生運動能力向上事業

方針・目標	本市小学校児童の体力向上及び教員の指導力の向上をめざす。
目標値	新体力テストで県平均を上回っている種目が、小学校6年生の男女それぞれで半数以上。 小学校6年生で2.5m以上泳げる児童の割合が60%以上。
事務事業の実績	市内6小学校3、4年生を対象とした巡回水泳教室をB&Gプール等で各校1回実施するとともに、小学校5、6年生を対象とした陸上巡回教室を、陸上競技力向上に必要な専門的指導技術を有する外部指導者を市内6小学校に年1回派遣して実施した。 ① 巡回水泳教室（日本体育協会 水泳指導員） ② 陸上巡回教室（元高校教育専門鑑） 事業費 564,000円
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) ○新体力テストで県平均を上回っている種目数 ・小学校6年生男子 2種目/8種目 女子 3種目/8種目 ○小学校6年生で2.5m以上泳げる児童の割合 65.3% 前年度比+1.0%
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) ・巡回水泳教室においてB&Gプールでの実施は、各校とも移動時間を要すこととなり、児童の活動時間が確保できない状況にある。平成29年度は事業休止。
教育委員評価	専門的指導技術を有する外部指導者からの基本的な指導は、児童・教員にとって大変有意義な時間である。この指導で学んだ事を授業に生かして行って頂きたい。また、児童の減少で運動部の競技数も減少傾向にあるため、自校のグラウンドにて個人で行える陸上競技に力を入れていくのもいいのではないかと。ぜひ事業継続を希望する。
学識経験者意見	自分の足で登校しない生徒が増えてきている現状のもと、正しい運動能力向上の取り組みは今後も必要である。小学校時に専門とする方々から指導を受ける事で、基本姿勢を学びつつ本物に触れ、充実感を味わえるいい機会になり得ると思う。健康な体には健全な精神が宿る。事業の復活を希望する。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

I 【学校教育の質の向上】

(4) 男鹿・春日井市児童交流学習事業

方針・目標	昭和62年から始まった本事業は、平成28年度で30回（男鹿市児童の春日井訪問は27回）を数える。両市の代表児童が、3泊4日の日程で相互に訪問し、交流校における学習会、ホームステイ、市長表敬訪問、文化・歴史施設等において宿泊体験学習を実施する。
目標値	①体験活動や交流会に楽しく参加して友情を深めるとともに、思いやりの心を積極的に態度で表すことができるようにする。 ②多くの友人や人との交流に際し、進んであいさつするとともに、相手や場に合った言葉づかいや行動ができるようにする。 ③交流先の文化遺産、自然等にふれ、改めてふるさとについて考えを深めることができるようにする。
事務事業の実績	平成28年度は春日井市訪問団（春日市児童37名、引率6名）が平成28年8月3日～6日に来市した。市長表敬訪問、払戸小児童との交流会、本市児童宅でのホームステイを実施し、両市の児童が体験活動を通して交流を深めた。その他、五里合中石梨畑、男鹿市ジオパーク学習センター、なまはげ館・なまはげ伝承館などを見学し、秋田・男鹿の自然と文化を体験する活動が展開された。 男鹿市訪問団（男鹿市児童21名、引率4名）が平成28年10月14日～17日に春日井市を訪問した。春日井市立松原小、高森台小においての交流学習、市長表敬訪問、児童宅でのホームステイ、春日井まつり、名古屋城やトヨタ産業技術記念館などの歴史施設・産業施設見学を実施した。訪問交流校では、本市代表児童による秋田・男鹿の文化・歴史・自然等についての発表や、伝統行事「なまはげ」の実演など、訪問の目的に沿った活動が展開された。 事業費 2,017,000円
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) 訪問児童は、見学先において、代表的な産業や歴史について学ぶとともに、ホームステイや交流校における人々とのふれあいを通して、人と人とのつながりやふるさと秋田・男鹿について見つめ直す機会となった。訪問後に、交流学習の記録を男鹿市交流学習感想文集「春日井の思い出」にまとめた。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) ・学校数（春日井市37校、男鹿市6校）の差が広がり、本市でのホームステイ受け入れ家庭の確保が困難となっている。
教育委員評価	多くの友人や人々との交流を通して、相手の立場に立って考えたり、思いやりの心を育んだり、人間形成にとってまことに意義深い事業と評価している。ホームステイの受け入れ確保は毎年課題となっている。訪問児童のいない家庭からの協力を得たり、公共の海の施設やキャンプ場などを使う等、男鹿ならではの対策を考えてもらいたい。
学識経験者意見	対外的な交流には、Think globally Act locallyの基本的な姿勢が求められる。交流校との触れ合いの中では、自分たちの住む精神風土としての男鹿について良く学習し、その良さや特色を再認識し直すまたとない機会となっている。2名の宿泊をお願いするとか、5年生以下の小学生のいる家庭や、一般家庭からの宿泊の賛同を得られるよう、早い段階からの各種の方法による呼びかけが必要になるのでは。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

I 【学校教育の質の向上】

(5) 国際教養大学との交流事業

方針・目標	<p>平成22年に、本市と国際教養大学との間で「国際交流に関する協定」を締結した。本協定に係る連携プログラムの目標は、次のとおりである。</p> <p>① 留学生との交流を通して、小・中学生が外国語や外国の文化について理解を深めるとともに、国際感覚を身に付けた人材の育成を図る。</p> <p>② ホームステイを通して、留学生と一般市民の相互交流を深めるとともに、留学生が男鹿の自然・文化・歴史等に触れる機会とする。(H23年事業終了)</p> <p>③ 国際教養大学との連携により、本市が目指す「観光交流都市」づくりの取組を進めるとともに、その取組を広く市民・県民に発信することで、本市の活性化に資する。</p>
目標値	<p>小・中学生が外国語や外国の文化について理解を深めるとともに、国際感覚を身に付ける。</p>
事務事業の実績	<p>① 学校で交流会を実施 市内全小中学校で、今年度は年1回、2時間程度の交流を実施した。複数名の留学生が学校を訪問し、積極的にコミュニケーションを図る態度や実践的コミュニケーション能力の育成を目指して、各校の計画に基づいて実施した。参加した留学生は、延べ63名である。</p> <p>② 留学生との英会話教室の実施 7月29日(金)に5・6年生3名、中学生2名、留学生7名が参加して実施した。男鹿の名所を英語で紹介するなど子どもたちは楽しんで活動することができた。</p> <p>③ 国際教養大学への訪問 冬季休業中の1月11日(水)に実施し、市内小・中学生の希望者27名(小学生21名、中学生6名)が参加した。 事業費 844,000円</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>(説明) 小学校では外国語活動との関連を考慮して活動内容を工夫したり、下学年との交流を企画したりと、各校が工夫して交流会に取り組んだ。また、中学校では、英語授業との関連を図りながら、留学生を効果的に活用していた。</p>
点検による事業の課題	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input checked="" type="checkbox"/>その他</p> <p>(具体的な課題及び取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話教室は、他の行事と日程が重なり、参加者が少なくなった。 ・平成29年度は事業休止。
教育委員評価	<p>小学校における英語教育の重要性が言われているこの時期に、事業の中止は残念である。この事業の趣旨を生かした新しい事業を考えて欲しい。小中連携を確かなものにし、英語教育に対し、今まで以上に興味・関心を高める努力をして欲しい。</p>
学識経験者意見	<p>楽しいだけで終わる事なく、児童生徒達がさらに英語を学び、スラスラと話せ、異国の文化も知ってみたいと思うようになるよう仕向ける事が大切である。また、市内各校への図書購入費の予算が削減される中、市立図書館での図書購入に当たり、一工夫していただきたい。例えば、学校現場で活用できる英語関係の「絵本」や簡単な「英語の物語」などを、少しずつ買い揃え、各校へ配付するというのも有効な手段の一つとして活用できるのではないかな。</p>

7 平成28年度重点事業の点検・評価

II 【学校教育環境の整備】

(1) 学校施設耐震化等事業

方針・目標	耐震診断の結果、耐震化が必要とされた船川第一小学校の屋内運動場について改築工事を実施し、適切な教育環境の実現を図る。
目標値	船川第一小学校屋内運動場の改築工事
事務事業の実績	<p>・ 船川第一小学校屋内運動場改築工事 (H28年4月15日着工～H29年1月31日完成) 事業費 457,889,000円</p> <p>【主な改修工事の内訳】</p> <p>解体工事 (既存屋内運動場・渡り廊下・旧音楽室・倉庫等) 建築工事 (新屋内運動場・渡り廊下・物置) 外構工事 (駐車場整備・フェンス新設) 電気・機械設備工事一式</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>(説明) 児童の安全に配慮しながら、工期の中で順調に工事を進める事ができ、安全な学校生活を送るための教育環境の整備を図る事ができた。</p>
点検による事業の課題	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>(具体的な課題及び取組) ・ 今回の工事が終わった事から、市内小・中学校全施設の耐震化が終了となるが、建築後25年以上を経過する校舎や体育館の老朽化が深刻な状況となっている。児童・生徒の安全を確保するためにも、施設の経過年数や劣化状況等に応じて計画的に改修等を実施する等の改善を図っていくことが必要である。</p>
教育委員評価	耐震化の終了から老朽化への対策、その一貫として教室環境はもとより学校周辺の環境など幅広い対応を引き続き検討して頂きたい。今後も児童・生徒が安全な学校生活を送ることが出来るよう、施設の点検等を怠ることなく実施して欲しい。
学識経験者意見	懸案であった体育館の改築工事中に、近くの体育施設を有効に活用することが出来たことから、教育上の問題は回避できたようである。建物の経年劣化は避けられないことではあるが、事故発生後の事後対応より、事前対応が肝心である。深刻な状況に至る前に、補強などによる改修工事に対応することが必要となる。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

Ⅲ【生涯学習・生涯スポーツ活動の推進】

(1) 男鹿市民文化祭

方針・目標	市民芸術団体や生涯学習グループ等の発表の場として開催するもので、市民の交流・交歓を図るとともに、本市の芸術文化・生活文化活動のさらなる発展を期する。
目標値	展示部門、舞台部門、市民短歌大会、児童生徒文学祭、市民体験学習等の行事を実施する。
事務事業の実績	◇平成28年度 男鹿市民文化祭（男鹿市民文化祭実行委員会主催） 日時 平成28年10月13日（木）～16日（日） 展示部門（13～16日）、第12回児童生徒発明工夫展（13～16日）、第46回市民短歌大会（13日）、花苗プレゼント（14日）、市民体験学習（14日）、第43回児童生徒文学祭（15日）、舞台発表（16日）、茶会（16日） 事業決算 1,185,978円（うち市補助金1,185,000円）
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) ・展示部門へ29団体7個人から出品233点出品、舞台部門へ26団体9個人の出演をいただくなど例年と同程度の参加を維持することができた。 ・4日間にわたり、男鹿市民文化会館、船川港公民館、市民ふれあいプラザハートピアを各会場に各行事を開催した（来場者計延べ3,280人）
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) 市民の芸術文化活動の振興を図るため、発表の場としての充実と若年層の参加者拡大を図る必要がある。
教育委員評価	日頃の練習・研鑽の成果を発表され、男鹿市の芸術文化の発展に貢献されている方々に敬意を表したい。全体をとおり若者が参加しやすい環境づくりや文化祭への参加を積極的に周知してもらいたい。また、地域の伝統文化行事に触れられる機会の提供も検討してもらいたい。
学識経験者意見	幼少の頃からの文化体験は大切であるし、興味・関心は一生ものである。地域の伝統文化も含む文化体験に積極的に参加できるよい機会である。芸術文化の振興という視点から、校長会推薦により児童生徒による演劇の1～2作を舞台で発表できる機会として与えられないものか。9～10月に各小・中学校では、学習発表会や文化祭を実施している。それらの中からの推薦で出演されることであれば、発表のための準備や練習にそれほど大きな負担は生じないものと思われる。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

Ⅲ【生涯学習・生涯スポーツ活動の推進】

(2) 男鹿駅伝競走大会

方針・目標	昭和27年、故高松宮殿下の「八望台」命名記念とあわせ、競技力の向上と男鹿の観光振興を期する。
目標値	一般65回、大学48回、高校男子58回、高校女子16回となる大会を実施する。
事務事業の実績	◇平成28年度 男鹿駅伝競走大会（男鹿駅伝競走大会実行委員会主催） 一般65回、大学48回、高校男子58回、高校女子16回 ・期日 平成28年7月2日（土） ・場所 男鹿市内各コース ・主催 男鹿市（一財）秋田陸上競技協会 男鹿市教育委員会 秋田県高等学校体育連盟 秋田魁新報社 大会参加チーム数（申込） 一般43、大学12（オープン参加1含む）、高校男子49、高校女子22、計126チーム 事業決算 7,988,948円（うち市補助金5,850,000円）
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) ・昨年とほぼ同数の参加チームで、大きな事故もなく大会を実施できた。 ・ゴール地点での混雑緩和策などの安全対策は計画通り効果を挙げた。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) ・大会の運営については、ボランティア等の人材確保と運営のさらなる効率化が必要である。
教育委員評価	男鹿のスポーツ振興と地域振興の発展のため継続していただきたい。ボランティア等の人材確保については、活動内容を広報により周知に努めていただきたい。また大会を盛り上げ充実させるためにも、地元チームの育成にも努めてもらいたい。
学識経験者意見	大会を継続的に盛り上げていくためにも、「おもてなし」の心で選手を迎え入れることや、全市民的な応援が欠かせないところである。また、人手不足対応として、関係団体等にリーダー的な役割を依頼し、各地区ごとの婦人会や町内会への協力要請をすることで多少なりとも解消できるのではないかと。関係機関としっかり連絡調整し、地域全体で応援できる体制づくりをより推進する必要がある。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

IV【芸術・文化・伝統の保護・継承】

(1) 脇本城跡保存整備事業

方針・目標	国指定史跡脇本城跡を地域の歴史学習や生涯学習、観光拠点として保存・活用を図るため、史跡脇本城跡整備基本計画に基づき、年次計画により保存整備事業を実施する。
目標値	・史跡見学者の説明・誘導の充実（国庫補助事業による遺構説明板・誘導案内板・遺構標識・注意喚起板の設置、案内人講座・城歩きの開催）
事務事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者、学識経験者、行政担当者（史跡整備担当）からなる調査整備委員会の指導を下に、昨年度製作した城跡復元想像図を活用した説明板等を内館地区に設置。 ・史跡脇本城跡案内人の養成講座を開催し、案内人のスキルアップおよび新規案内人の養成。案内人を活用した市民向け城歩きイベントの開催。 ・平成29年度から開始する個人有地買上げの補助事業化についての事務準備手続き、国・県との調整。 事業費 10,159,834 円（うち国補助金 4,093,000 円）
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る （説明） <ul style="list-style-type: none"> ・説明板等の設置、調査整備委員会の開催、国庫補助事業に係るすべての事務について年度内に完了することができた。 ・新規案内人が4名誕生し、より多くの見学者に対応できるようになった。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 （具体的な課題及び取組） <ul style="list-style-type: none"> ・説明板や誘導標識等のさらなる充実と休息施設（ベンチ、東屋）の設置等、快適に史跡見学ができる環境整備を継続的に進める必要がある。 ・案内人の技術向上と利用の周知、案内マップ等ソフト事業の充実を図る。
教育委員評価	調査整備委員会の設置や、案内人の養成など良く活動している。年々整備が進むと同時に、歴史上の価値が注目されており、これまでの取り組みを評価したい。史跡から望む日本海を堪能できるような展望台の設置なども検討してもらいたい。
学識経験者意見	国指定の史跡ということで、いつ、誰が訪れても史跡巡りができるように「散策路の整備や道順の案内板、遺構の説明板」などが整えられ、長い年数をかけ順調に整備事業が進んでいる。できれば、遺構との絡みの中で位置的に一服しながら展望を楽しめる東屋の設置ができないものか。城址を示す標識や入口が分かりやすく、駐車場にも簡単に入りづらいのが難である。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

IV【芸術・文化・伝統の保護・継承】

(2)「男鹿のナマハゲ」行事実施状況調査報告書作成事業

方針・目標	「来訪神：仮面・仮想の神々」ユネスコ無形文化遺産登録への動きを受け、あらためて「男鹿のナマハゲ」の現状を把握するとともに、行事を保存・継承するための情報共有と研究としての活用を図る。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各町内で実施されている大晦日のナマハゲ行事の状況を調査し、現状を分析する。 ・前回調査（昭和52年）からの変化を明らかにし、報告書として刊行する。
事務事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・男鹿市菅江真澄研究会と連携し、平成27年度に回収した町内アンケートの集計と追加調査による現状の把握。 ・ナマハゲに関する講演の掲載等、研究資料としての充実。 ・報告書として刊行し、各町内、図書館、学校、行政機関等に配布。 <p>事業費 361,152円</p>
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全町内会の実施の有無、内容について調査し、現在の行事の状況調査結果を詳細に掲載したとともに、前回調査との比較から行事の変化を記録できた。 ・講演録等の研究者の見解を掲載し、行事の課題、今後の展望を示すことができた。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 <p>(具体的な課題及び取組)</p> <p>町内交付金の実績でナマハゲ行事実施の有無については把握可能であるが、行事内容の変化等を把握するため、定期的な詳細調査を実施することが必要である。</p> <p>行事を実施している町内会同士が情報の共有や意見交換をし、行事を継続する方法を探る機会を設けることが必要である。</p>
教育委員評価	重要無形民俗文化財として認知されている「男鹿ナマハゲ」行事であるが、地域の生活の中に根付いてはじめて意義を持つと考える。積極的に地域の行事として生活の中に定着するよう引き続き行政面、財政面での支援を期待したい。またナマハゲ役を担う人材の確保に難儀しているが、大晦日は家族でゆっくりしたいという意見も一部にあるので訪問時間の検討も必要ではないか。
学識経験者意見	無形民俗文化財は人々が継承していかなければ消えて無くなってしまいう文化である。一方地域の方々の理解・協力なくしては継承できない文化でもある。安全寺地区では、国際教養大学の留学生をこのナマハゲ行事に直接かかわらせようとする動きがある。行事の存続や保存の点で、慣例を超えた対応が地域や支援に当たる行政サイドにも求められるのではないか。

7 平成28年度重点事業の点検・評価

V【芸術・文化・伝統の保護・継承】

(3) ジオパーク推進事業

方針・目標	男鹿市、大潟村のすぐれた大地の遺産と歴史・自然・文化遺産等を活用し、男鹿半島・大潟ジオパークの更なる質の向上を目指す。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・男鹿半島・大潟ジオパークWebの大幅リニューアルと英語化 ・ジオツアーの催行（赤神神社五社堂800年祭とのコラボレーション） ・秋田県ジオパーク連絡協議会等の連携事業 ・日本ジオパーク全国大会へ向けた準備
事務事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日英版公開中。位置図や活動情報、ガイド情報の充実。 ・お山かけツアーでは、80名定員で公募したが、98人の参加あり。 ・研究助成事業（申請12件、採択4件）、普及啓発イベント（8/19千名参加） ・大会受付や宿泊斡旋業務の先行委託契約締結。大会概要の決定。 <p>事業費 7,112,163円</p>
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・WEBを見た人からのガイド依頼件数が増加している。 ・ツアーについて、平成29年度分の問い合わせもあり、需要がある。 ・基礎研究の底上げや連携が国内のジオパーク活動でも評価されている。 ・全国大会開催に関して国内でも注目されており、具体的な準備を進める。
点検による事業の課題	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ツアーが恒常化していくこと、また、参加料金で企画催行できる工夫が必要である。 ・ジオパークに関する基礎研究の底上げと、県内連携を強化する必要がある。
教育委員評価	スマートフォンやタブレットで誰もが関心を持ち、分かりやすい映像等が提供されている。実施ツアーも大変興味深く盛況であり、高く評価したい。引き続き関心が持たれるような環境整備に努めてもらいたい。
学識経験者意見	ジオパークは聞き手がしっかり歴史や地学等を含めてイメージできなければ理解の深まりは期待できない。その点、男鹿半島・大潟ジオパークガイドはスキルアップ研修がしっかりとなされてきており、H29年のジオパーク全国大会の開催地ともなった。今後も観光需要を掘り起こし外部からの人を呼び込むためにも、観光拠点としての整備だけでなく、新たな情報の発信やジオ単独ではなく、ジオと男鹿の自然を結び付けたツアーイベントの開催などを試みる工夫の余地があるのではないかと。